

甲佐町議会だより



清流

第169号

令和元年(2019)6月3日

発行 甲佐町議会

発行責任者 議長 宮川 安明

3月定例会



新体制による議会構成.....	②～
3月定例会の審議結果など	④～
平成31年度当初予算	⑥
一般質問7人 ここが聞きたい!	⑧～
町民の声.....	⑩

上級生から新入生へ
(乙女小学校の入学式直前)

議長に 宮川 安明氏

臨時議会
(初議会)

平成31年3月1日



就任あいさつ

議長 宮川 安明

議員改選後の初議会が、3月1日に招集された。
まず、臨時議長により議長の選挙を実施、次に新議長による議席の決定、副議長の選挙を行ったあと、各常任委員会、議会運営委員会、一部事務組合等議員、議会広報編集特別委員会の各委員及び議会選出の監査委員を選任し、新しい12人の議員による議会構成のもとに、新体制がスタートした。

町民の皆様方には、町議会に對しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は甲佐町議会の改選に伴い、3月1日に行われました臨時会において、議長に選任され、身に余る光栄と存じます。同時に、議決機関である議会の長の責任は、極めて重大であり、身の引き締まる思いでございます。

さて、本町を取り巻く環境は毎年変化しております。厳しい財政状況の中にあつて、熊本地震からの復興計画の着実な実施とともに、人口1万人割れが目前の現状を危機的状況と捉え、定住促進や企業誘致とともに基幹産業の農業への支援、さらには少子高齢化社会に対応した、医療・福祉・教育の充実、地方創

生への取り組み等、重要な政策課題が山積しております。

私たち議会は、町民の皆様から選ばれたということを肝に銘じ、多様化する住民ニーズの変化を的確に把握し、町執行部とも連携して参ります。

町民の皆様にとってより身近で、開かれた議会を目指して、会話と議論を重ね、皆様の期待にお応えしたいと、固い決意で町政発展のために、誠心誠意努めてまいる所存でございます。

今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。



副議長に

福田 謙二氏を選任

新体制による議会構成

総務文教
常任委員会



宮本 修治 委員長

産業厚生
常任委員会



荒田 博 委員長

議会運営委員会



本田 新 委員長

議会広報編集
特別委員会



甲斐 高士 委員長

副委員長 本田 新

委員 宮川 安明

委員 佐野 安春

委員 甲斐 高士

委員 甲斐 良二

副委員長 鳴瀬 美善

委員 井芹しま子

委員 福田 謙二

委員 森田 精子

委員 田中 孝義

副委員長 荒田 博

委員 宮本 修治

委員 鳴瀬 美善

監査委員
(議会選出)

森田 精子

副委員長 宮本 修治

委員 佐野 安春

委員 森田 精子

委員 鳴瀬 美善

委員 田中 孝義

委員 甲斐 良二



新たな議会議員

御船地区衛生施設組
合議会議員

上益城消防組合議会
議員

(し尿処理)
本田 新
宮本 修治

荒田 博
田中 孝義

御船町甲佐町衛生施
設組合議会議員

上益城広域連合議会
議員

(ごみ処理)
福田 謙二
甲斐 良二

宮川 安明
福田 謙二

後期高齢者医療広域
連合議会議員

宮川 安明

3月定例会

3月定例会は、3月12日に開会し、15日までの4日間の会期で開催した。

上程された議案は、人事案件2件、条例案件8件、工事請負契約案件4件、平成30年度一般会計及び各特別会計補正予算、平成31年度一般会計及び各特別会計予算、その他の案件で審議の結果、すべて原案のとおり可決した。

13日の一般質問には、7人の議員が登壇し、緑川を活かした観光振興、内水氾濫対策、(仮称)乙女橋御船線、芝原団地の液化化・産業廃棄物問題、国保税の負担軽減、交通弱者対策、町長マニフェストの評価等について活発な議論を展開した。

平成31年3月定例会の審議結果

区分	議 案 名	概 要	審議結果
同意第2号	甲佐町固定資産評価審査委員会委員の選任に付き同意を求めることについて	固定資産評価審査委員会委員へ溜渕清裕氏を選任することについて、議会の同意が必要なもの	同 意
同意第3号	農業委員会委員の任命に付き同意を求めることについて	任期満了に伴い、14名の新たな委員を任命するために議会の同意が必要なもの	同 意
議案第4号	甲佐町森林環境譲与税基金条例の制定について	平成31年度から森林環境譲与税制度が始まり、基金設置が必要となったもの	可 決 (反対2)
議案第5号	甲佐町介護予防拠点施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	熊本地震で被災し解体された、乙女福祉ふれあいセンターに関する項目の削除に関する条例改正	可 決
議案第6号	甲佐町高齢者福祉センターの設置及び管理に関する条例の制定について	乙女高齢者福祉センター「まつやま」の建設(新設)に伴い、条例の制定が必要となったもの	可 決
議案第7号	甲佐町子育て支援住宅管理条例の制定について	子育て支援住宅「ヴェルデ甲佐」の建設(新設)に伴い、条例の制定が必要となったもの	可 決 (反対4)
議案第8号	甲佐町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	消防団員の年額報酬の改定を行うために条例の一部改正が必要となったもの	可 決
議案第9号	甲佐町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	省令の一部改正において、支援員の資格要件の改正があっており条例の改正が必要となったもの	可 決
議案第10号	甲佐町重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	児童福祉法の改正に伴い、根拠条文の条番号等について条例の改正が必要となったもの	可 決
議案第11号	甲佐町上水道給水条例の一部を改正する条例の制定について	上水道区域の拡張、手数料の見直し、技術士法の改正に伴い、敷設工事監督者の資格要件の改正が必要となったもの	可 決
議案第12号	工事請負契約の締結について	熊本地震で被災し解体された、甲佐町グリーンセンターの再建に関する契約締結	可 決

4ページのつづき

区分	議 案	概 要	審議結果
議案第13号	工事請負契約の変更について	安平川の災害復旧工事の変更契約（減額）に関する契約締結	可 決
議案第14号	工事請負契約の変更について	町道西寒野小川島線の災害復旧工事の変更契約（増額）に関する契約締結	可 決
議案第15号	工事請負契約の変更について	府領地区がけ崩れ対策工事の変更契約（増額）に関する契約締結	可 決
議案第16号	業務委託に関する協定の変更について	熊本県と締結している、甲佐地区災害公営住宅整備に関する協定について、変更（減額）する協定締結	可 決
議案第17号	平成30年度甲佐町一般会計補正予算（第5号）	補正額を6ページに掲載	可 決
議案第18号	平成30年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	補正額を6ページに掲載	可 決
議案第19号	平成30年度甲佐町介護保険特別会計補正予算（第4号）	補正額を6ページに掲載	可 決
議案第20号	平成30年度甲佐町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	補正額を6ページに掲載	可 決
議案第21号	平成31年度甲佐町一般会計予算	予算額を6ページに記載	可 決 （反対2）
議案第22号	平成31年度甲佐町国民健康保険特別会計予算	予算額を6ページに記載	可 決 （反対2）
議案第23号	平成31年度甲佐町介護保険特別会計予算	予算額を6ページに記載	可 決 （反対2）
議案第24号	平成31年度甲佐町後期高齢者医療特別会計予算	予算額を6ページに記載	可 決 （反対2）
議案第25号	平成31年度甲佐町水道事業特別会計予算	予算額を6ページに記載	可 決 （反対2）

※審議結果の“可決”は全会一致または賛成多数によるものです。

乙女高齢者福祉センター
「まつやま」が完成

高齢者の健康増進、教養の向上及び災害時における避難所としても活用できる施設として、乙女高齢者福祉センター「まつやま」が乙女小学校の敷地内に完成し、4月17日に落成式が行われた。



甲佐町固定資産評価審査委員会委員へ
溜渕 清裕氏

現甲佐町固定資産評価審査委員会委員の田上菊夫氏（谷内）が平成31年3月23日で任期満了となることから、溜渕清裕氏（津志田）を選任することに全会一致で同意した。



平成31年度 当初予算を可決

113億9318万円

会 計 名		予 算 額	増減率 (前年比)
一 般 会 計		77億8543万円	92.3%
特別会計	国 民 健 康 保 険 事 業	15億4785万円	98.8%
	介 護 保 険 事 業	15億1514万円	99.7%
	後 期 高 齢 者 医 療 事 業	1億5065万円	101.0%
水道事業（公営企業会計）		3億9411万円	124.3%
合 計		113億9318万円	95.0%

（金額は1万円未満を四捨五入しています）

平成30年度 補正予算を可決

2億6357万円減額

会 計 名		補 正 額	補正後の総額
一 般 会 計		△1億7779万円	84億3455万円
特別会計	国 民 健 康 保 険 事 業	△ 4959万円	18億8410万円
	介 護 保 険 事 業	△ 2998万円	15億8744万円
	後 期 高 齢 者 医 療 事 業	△ 621万円	1億4454万円
水道事業（公営企業会計）		—	3億2576万円
合 計		△2億6357万円	123億7639万円

（金額は1万円未満を四捨五入しています）

そこが 知りたい

Q & A

3月定例会 質疑から

甲佐高校支援事業

Q 甲佐高校支援事業の効果は。

A 甲佐高校への支援については、昨年から公営塾を立ち上げて学力面での支援を行っている。効果としては、受講生の中から本町役場職員として4月から採用予定者もいる。また、大学を目指された生徒もあり、学力向上が図られてきていると判断する。

今後は、公営塾の効果

を広くPRしていくとともに、内容の充実を図り更に成果を上げていきたい。

町営バス運行事業

Q 町営バスの利用者減少に伴い、バスの小型化を図ってはどうか。

A 平成31年度において公共交通の基礎調査を実施予定である。その調査結果を基に、将来的な町の公共交通計画を作っていくたい。

甲佐町グリーンセンター復旧工事

Q グリーンセンター復旧工事後の活用策について。

A グリーンセンターは樹芸の産地の育成、産業の振興の拠点施設である。

毎週日曜日に競り市等も行われており、完成後は交流人口の増加等も大いに期待できる。

また、熊本地震を教訓に、大規模災害等発生時の避難所としても活用できるように設計を行っている。

施設完成後は指定管理者等の指定も含めた上で検討を行い、産業の振興を図っていききたいと考えている。

有害鳥獣被害対策事業

Q 有害鳥獣を駆除される猟友会の高齢化、

担い手不足が懸念されるが、町の考えは。

A 現在、有害鳥獣駆除隊の中にわな班の編成を行い、猟銃だけではなく、わなでの捕獲も実施している。

そのような中、中横田地区については地域内でのわなの免許を取得され、地域住民自らが自分たちの近隣の農地、農作物を守るというような活動を実施されている。

猟友会による駆除も実施していくが、各地域での取り組みについても今後推進していきたい。

旧西村民俗資料館改修事業

Q 改修後の活用計画及び改修状況について。

A 旧西村民俗資料館の活用計画としては、宿泊施設とカフェを計画しており、平成31年度末の完成を目標に事業を推進している。

改修状況については、平成30年度において、屋根部分と内装部分の改修を実施している。屋根改修については工事発注したが、内装についてはワークショップ形式による改修を行った。ワークショップには町内外より124名、うち町内32名、町外92名の方々が参加された。県外参加者も19名おられ、交流人口、関係人口の増加にもつながっている。



公営塾「あゆみ学舎」での授業の様子
(甲佐高校 部室棟・ミーティングルーム)



旧西村民俗資料館のワークショップで汗を流す参加者

ここが聞きたい

一般質問

緑川を活かした振興策と濁りの長期化について

町長 関係機関と連携を図り清流再生に頑張る



鳴瀬 美善 議員

北畑地域振興課長

平成27年度から安津橋下流で緑川スポーツフェスタを実施。



今年の緑川スポーツフェスタ

問 熊本県移住定住ポータルサイトの甲佐町の紹介文では、「花と緑と鮎の町」をキャッチフレーズに清流緑川の恵みとともに暮らすとある。緑川を活かした振興策にはどのようなものがあるのか。

今年68回を迎えるあゆまつりや、鮎料理を楽しむめるやな場の観光PRにも努めている。
また鮎の町ということで稚アユの放流や、現在河川敷を活用した事業として、国土交通省と連携し安津橋総合運動公園（仮称）の整備を行い地域間交流の拠点として地域振興を図っている。

問 緑川の水質状況と、ダム放流後における浄化（濁り）の長期化について町の考えは。

奥名町長

水質向上対策等については、以前区長会からも要望があり、緑川管理事務所に出向き当時の水質の状況等について説明を受けた経緯がある。水質上問題はなく、以前より逆に水質的には向上しているような話を伺っている。

ところが昨年の状況を見ると非常に汚濁の、特に雨が降った後の汚濁が解消するまでの期間が長

期化している現実がある。この問題については、国、県、流域市町村、緑川漁協など関係機関と連携を図りながら清流緑川の再生に向け頑張っている。



釣り人で賑わいを見せていた頃の緑川

災害からの復旧・復興

問 熊本地震並びに豪雨災害から3年を迎えようとする中、未だ多くの方が仮設住宅に入居されておられることから、その現状とこれからの支援策についての考えは。

志戸岡建設課長

仮設住宅について、2月末時点で入居世帯数が84世帯、入居者数186人で仮設住宅入居者の転居予定先は、自宅再建47件、災害公営住宅34件、町営住宅3件が入居予定となっている。

北野福祉課長

みなし仮設住宅について、2月末時点で入居世帯数23世帯、入居者数が59人でみなし仮設住宅入居者の転居予定先は、自宅再建12件、民間賃貸住宅3件、災害公営住宅8件となっている。

仮設住宅入居者並びに既に転居されている方、これから転居される方への支援策については、現在取り組んでいる事業を継続し実施する。

また、今後においては、災害公営住宅等へ転居された方などに対しては、既存の各種支援金に加え、来年度から甲佐町災害公営住宅等コミュニティ形成支援事業を実施し地域福祉の推進につなげる。

職員の健康管理と人材育成

問 現在、役場においては、休職者や早期退職者が多いと聞くが健康管理への取組みと人材育成について問う。

師富副町長

今年度早期退職、また心の病や不調を訴える職員が多いということで心配をかけ申し訳ないと思っています。

熊本地震からの業務量の増大も要因の一つと想定されるので、業務量、所掌事務の見直しも含め検討する。

そのほか、管理職と部下職員との日頃からのコミュニケーションのあり方が大事と考えており、職員の資質向上の観点からも効果的な研修や、職場環境や処遇面で改善すべき点など検討を重ねる。

市街地の内水氾濫対策は

建設課長 堆積土砂の撤去を考えている



田中 孝義 議員

クスの改修と下流部の拡幅を計画している。南谷川については、大井手川に流れ込む水量を減少させるため放水路整備が効果的対策と考える。

問 市街地の内水氾濫について、大井手川、南谷川、湯田川の平成29年700万円の予算が付いた調査がされていると思うがその調査結果は。

志戸岡建設課長

平成23年と29年に内水調査を行っている。結果については、通常行いう河川整備を含め河道掘削、遊水池、放水路の整備、また排水ポンプの設置、ネット箇所解消などを検討している。

具体策として大井手川については、川床掘削、橋梁の橋桁かさ上げ対策が効果的と考える。湯田川については、国道443号線の歩道改良に伴い国道を横断しているボツ

志戸岡建設課長

時期については、決まっていない。しかしすぐできる対策として河川水路の維持管理の中で堆積土砂の撤去を考えている。

問 大井手川等の堆積土砂の撤去については、時期を待ってはいられない。梅雨時期の前にやって頂



大井手川（甲南橋から上流）



鮎緑橋のたもとの水量計

きたいと考えるがいかがか。

志戸岡建設課長

梅雨時にできることはやっていきたいと考えている。

問 梅雨前に堆積土砂の撤去をやって頂くと思つてよいのか。

志戸岡建設課長

町が管理する河川について堆積土砂がひどいところは梅雨前に撤去するように考えている。

問 最終的に水害のない甲佐町を目指していただきたいが町長の考えは。

奥名町長

町の内水対策については、問題点の洗い出しから具体的な対策案も示されている。引き続き要望等、活動についても行っていく覚悟でいる。

平成30年度の国の第2次補正予算で防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策が示されている。本町においてもハード面での整備と合わせたところでのソフト面での防災対策を兼ね合わせながら今後の内水対策についてやっていきたい。また関係各課連携を図り今後も対応する。

議員 今回の土砂撤去毎年溜まると思うので、確実な設備ができるまで続けて頂きたい。

職員のメンタルヘルス対策

問 職員のメンタルに関する休職者、退職者に関する原因究明は、されま

したか、お聞かせ下さい。

西坂総務課長

転職者5名、退職者3名に対して担当課長や人事担当者による面談を行い理由の聴取や慰留をその席で行っている。休職者に対しては、心身的な不調による休職という点でその都度面談を行っているが、状況を把握している。

問 退職者、休職者以外で仕事をしながら通院している職員はいるのか。

西坂総務課長

休職後の通院者も数名いる。

問 無記名によるアンケートを実施し、原因があるのであれば改善できることは改善し、職員の働きやすい職場にできればと思うが。

西坂総務課長

今後、実施するかを考えた。

一般質問

(仮称) 乙女橋御船線の道路新設計画は

町長 御船町の震災復興計画に搭載されて
おり側面から協力

森田 精子 議員

本路線の計画策定にいたった経緯を。

奥名町長

この件については、過去の議会でも乙女橋から御船町につながる道路の整備の計画について質問をいただいていた。計画区間は、御船町になるが、甲佐町としても本路線を整備することで多くの効果が期待できる。御船町地内に甲佐町の町道を走らせている実例もある。今後町の考え方として、熊本地震を経てこの路線が非常に重要な役割を果たすことも考えられている。また、御船町の震災復興計画に搭載されたこと聞いている。御船町との協議の中で進めていくことに変わりはないが、甲佐町としては用地買収を含めた側面的な協力を積極的に行っていきたい。

志戸岡建設課長
線形については、地図上で示しているルート案であり、基本調査や測量も未実施で机上の中でのルートで決まっていない。道路整備計画に搭載された時期は、平成27年度の道路整備計画5カ年計画に搭載されている。

問 御船町に建設する部分も甲佐町の負担で町道を建設するのか、改めて

面になっていた。この点についてはつきりと町長の声を町民に届けるべきで、事実の有無はどうなっているのか。

奥名町長

自分もその記事に目を通し、自分自身に対して、あるいは自分の家族に対してそういう目で見られていたことを非常に残念に思う。この土地は、道路計画以前に所有をしていた土地であり、今回の計画に対して何ら誤解を持たれるようなことは一切ないと考える。その土地は平坦であるが町道との高低差が5m程あるため、オープンカットでの工事しかできない。残った土地の利用価値は半減すると考える。この事業を推進するにあたり、あくまでも協力者として土地の買収には応じるそういったスタンスであるとおきたいと思う。

防災意識向上の一環として震度計の設置場所は

問 震度観測点設置場所の整備方法、震度発表はどうなっているのか。

佐々木くらし安全室長

震度計は、地震動を計測するセンサーと計測システムで構成される。これらは気象庁、県、防災科学技術研究所等が全国に設置しており、甲佐町は県が役場敷地に設置している。気象庁が発表する震度は、これら震度計で観測したデータを集積し発表している。従って揺れの大きさは、町内でも震源地の場所や地形等で異なることがある。



役場中庭に設置してある計測震度計本体



計測震度表示器

問 震度計の移設又は増設はできないのか。

佐々木くらし安全室長

県が管理する震度計は、基本的に各自自治体に1つであり、震度計の新設及び移設は可能であるが、そうになると町の費用負担と機械自体の維持管理が困難となることから現在のところ考えていない。地震等の被害を最小限に抑えるには自助、共助そして公助がそれぞれ役割を果たしていくことが大変重要である。自分の身は自分で守り、自分達の地域は自分達で守るという考えを持ち、日頃から地震等災害に備えることが必要である。

液状化対策検討委員会の設置は

建設課長 早急に工事をするため設置していない



佐野 安春 議員

問 国交省の市街地液状化対策推進ガイドランスによると、「液状化対策事業計画の策定にあたっては、液状化による被害態などの把握、液状化の発生メカニズムの確認・解析等の各社会基盤施設等に共通する技術的事項について、液状化対策検討委員会を設置し意見を聞くことが重要」とあるが、甲佐町においては、対策検討委員会は設置されていない理由は何か。

志戸岡建設課長

設置しなかった具体的理由として、液状化対策の中で住民に負担が少ない工法である地下水位低下工法が芝原地区には有

効ということ、また、地質の調査等から得られた情報と併せて宅地への影響が少ないこと、早急に災害復旧工事をするので検討委員会の設置はしていない。

議員 液状化対策工事が終了しても、地下水が想定通り低下できているか。また、地盤沈下による家屋への影響が生じていないか等、一定期間モニタリング調査をして、効果について確認する必要がある。この検証は、液状化のメカニズムや対策工法について検討してきた



芝原液状化対策工事の様子

検討委員会で検討することが重要と考える。複数の学識経験者の検証や意見が必要と思う。

工事後の地盤沈下等の被害に対する補償は

問 液状化対策工事後の地盤沈下等の被害に対する団地住民に対する補償は。

志戸岡建設課長

液状化対策工事により建物等に被害が生じた場

合には、工事との因果関係を調査する。それで、公共工事による地盤変動や建物に損害が生じた場合には、工事の日から1年を経過する日までに請求があった場合に限り補償をする。

子ども医療費助成、18歳年度末までに引き上げを

問 子ども医療費助成について、八代市や上天草市で18歳年度末までに引き上げるとの報道があ

っている。県内市町村の子ども医療費助成の実施状況はどうなっているか。

北野福祉課長

平成29年10月1日現在の県内の状況は、熊本市が小学校3年生までを中学3年生までに引き上げている。また、小国町、南小国町、津奈木町が中学3年生から高校3年生までに引き上げている。高校3年生までが18市町

村となっている。

問 県内45市町村の状況は、15歳までが60%、18歳までが40%、これに八代市と上天草市を加えれば18歳までは44・4%となる。

子育て支援を強めることによって自治体が生き延びるかどうかに係る重要な政策であることを、それぞれの自治体は充分捉えていると思う。

この状況について、町長はどう思われるか。

奥名町長

今後の方策として、提言は十分わかるが、震災後の実質的な一般財源の負担は約7億円となっている。そういう状況が財政的にはある。子育て支援・定住政策、それからの復興、いろんなことを総合的に判断しなければならぬが、現段階においては震災からの復旧・復興を第一に考えていきたい。

一般質問

「道路整備5カ年計画」乙女橋御船線（仮称）は中止をするのか

町長 町主体で事業をする必要性はない



井芹しま子 議員

問（仮称）町道乙女橋御船線は、御船町域内に町道を建設するという計画だが、これまで賛否について議論が交わされてきた。昨年の12月議会では、福田議員が「当初この路線は甲佐町で整備する予定であったが、今後どうなるのか」という質問があった。これに対し、町長は「この路線は御船町の震災復興計画に搭載されており、御船町で事業化されれば、用地買収で協力したい」と答弁されている。

この発言の真意を再度尋ねたい。この事業は御船町がするから町はしなくてよくなった、全く町は経費を出さない、工事はしないと取っていいの

か。

奥名町長

御船町の震災復興計画にすでに登録されているので、あえて甲佐町主体で事業をする必要性はない。経費的なことは、御船町が主体になれば、町から直接的な経費を出すことはないと思う。ただ、町の地権者が数多くいるので、用地買収については積極的に協力したい。



（仮称）乙女橋御船線予定地

国保の財政運営は

問 国保は被用者保険を除く公的医療保険制度で、加入者は年金生活者、失業者、非正規雇用者、自営業などの方が加入している医療保険制度で、所得の低い方も多い。しかし、保険税は協会健保や公務員共済、組合共済と比べるとはるかに高くなっている。

所得250万円、40代夫婦、小学生・中学生各一人の4人家族の場合国保は、協会健保の2・1

倍、公務員共済の2・29倍と負担は大変大きいものとなっている。

こうした事態に、全国知事会や市長会、町村長会も国に解決を求めている。知事会は、公費1兆円の投入で協会健保並みの負担率にし、被用者保険との格差是正を求めている。

国保の都道府県化によって今後の財政運営はどのようなになるのか。

奥村住民生活課長

国民健康保険制度改正に伴い、本年度4月から、県が国保の財政運営の責任主体となり、県と市町村との共同運営がスタートしている。今年度、国保会計の歳入現金に不足を生じることなく、順調な財政運営が行われている。

現時点での平成30年度国保特別会計の決算見込みは5千万円程の余剰金が生じる試算となっている。

財政運営の見通しは、県と市町村が一体となっ

て国保の事業運営を実施していくことで、財政運営における不安は解消されていくものと考えている。

国保への法定外繰り入れの返納について

問 昨年12月議会では、過去の一般会計から国保への法定外繰り入れの返納を決めたが、すでに決算が済んで4年もたっており、国保世帯の負担の大きさ、厳しさを考えると、町は加入者の負担軽減、また、加入者の健康保持・増進のために生かすべきではなかったのか。

奥名町長

国民健康保険料は、県への移行前に比べると下がっており、新年度の税率についても据え置いたところでの財政運営が可能と判断している。あえて、一般会計に返した基金については保険料引き下げに充当する考えは現在思っていない。

交通弱者への対応は

企画課長 町全体の公共交通の再構築が必要



荒田 博 議員



昭和47年から運行を行っている町営バス（このバスは7台目）

問 少子高齢化が進む中本町の交通弱者への対応は。

一 企画課長

公共交通は、町営バス、民間バスがある。交通弱者対策として運行形態の見直しや利用者促進の検討をするように第6次総合計画に記載している。町全体の公共交通の再構

築が必要になっている。

問 町営バスの運行を田代地区までルート変更できないか。

一 企画課長

本町の公共交通は大変厳しい状況にある。近年周辺の市町で将来の計画的な公共交通を維持するため地域公共交通網形成計画というものが作成されている。本町においても非常に大切な計画と認識しており、来年度に公共交通の基礎調査を行い今後の方向性を決めることとしている。その中で町営バスの延伸についても検討していく。

健康増進法の一部改正について

庁舎での屋外喫煙場所は県内自治体対応を考慮した上で検討する

問 健康増進法の一部改正する法律で望まない受動喫煙の防止を図るため

に、本年7月1日より官公庁での敷地内原則禁煙になるが、屋外で受動喫煙を防止するために必要な措置がとられた場所に喫煙場所を設置できるとあるが本町での対応は。

西坂総務課長

第1種施設である行政機関においては、受動喫煙により健康を損なうおそれが高いものが利用する施設であるから特定屋外喫煙場所を設置することを推奨するものではないことを十分留意されたいと通知がきている。

本町での対応は、平成31年度予算に施設の設置費用を計上している。

今後の県内の各自治体の状況を検討し、7月1

農道から町道に格上げは

日の法施行前までに十分協議をした上で進めていきたい。

問 農道から町道への格上げは今までの利用より

農道としての利用よりも生活道路としての利用が多い農道もあるのではないか。

志戸岡建設課長

地域からの要望で町道の要件に合致した路線、農道として整備された団体営農道事業や圃場整備した道路がある。近年では、広域農道の乙女大沢水線を町道船津上早川線として認定している。

岡本農政課長

農道を生活道路としての利用はあると思うが具体的な数は把握できていない。

問 農道から町道へ格上げするためには。

志戸岡建設課長

町道認定の要件は、住民の生活に直結した道路であり、地域社会の実情に合致したものが望ましく、集落とか公道に連絡している道路、公共施設に連絡している道路、道路の沿線に住宅があり道路の延長が100m以上であることなどの要件を備えたものを審議する。

一般質問

町長マニフェストへの災害の影響は

町長 災害対応を優先させた



本田 新 議員

問 町長のマニフェスト40項目で、実行されているものが大多数あるが、震災と水害への対応に追われて、当初の計画に影響がなかったのか。

奥名町長

熊本地震と豪雨の災害対応については、発災直後から避難所の運営、被害認定の調査、り災証明書の発行、仮設住宅の建設、公費解体など、被災者の支援に多くの関係者の皆様方の支援と努力により、県内でもいち早く、他の自治体に先駆けて事業実施ができた。

災害対応を優先させたため、新規事業の検討、事業着手については、延伸したこともある。

問 創造的な復興とは、具体的には何を指しているのか。

奥名町長

地方創生を見据えた復興を目指して災害公営住宅、子育て支援住宅、防災公園、安津橋の上流の総合運動公園の整備を行う。

県営事業では、田口橋の改修があり、単純に4・5mを7mに広げるだけではなく、白旗地区における平面交差は、今後の甲佐町の活性化の意欲でも、期待をする改修工事である。

完成が待ち遠しい「田口橋」
(田口側上流から)

問 町長は3期12年の総括をされているが、来期についてはどのように考えているのか。

奥名町長

政策目標に対する達成度については、不十分であり、積み残した案件も多くある。また、これまで温めてきた政策が町の活性化につながる事業にも、意欲を持って望みたい、そういう気持ちも強く持っている。これから創造的復興とあわせて、来る町長選挙、4期目の立候補の決意を表明する。

議員定数削減

問 以前議員定数削減を行った当時の議論、考え方がどういったものだったのか。

奥名町長

御船町との合併協議が整わず、国が進める三位一体の改革によって、地方交付税は大幅に削減され、議会も執行部と一体となつて財政改革に向けて、議会自らが努力する義務があるという趣旨で定数削減に至った。

定数も、16名から12名に、4名の削減を行った根拠については、当時、議員の定数については千人に1人というような考え方があつて12名という数字が出てきた。

問 定数削減は、当時の財政状況と今の財政状況を比較した上で、議論すべき。

西坂総務課長

平成28年4月の熊本地

震、6月の豪雨災害の影響により、中期財政見通しでは、平成34年度には財政調整基金の残高は2億5千万円まで減少し、行革前の財政再建団体転落ということも危惧されるような状況になっている。

問 4年後の人口の見込みはどれくらいと考えているのか。

一圓企画課長

1万人前後と考えている。

問 定数削減を提案したいと考えているが、町長にお願いをしたいのは、町民はどう考えているのか、例えば区長会あたりに諮問してみてもどうか。

奥名町長

過去に実施されてきた条例改正におきましては、議員から発議がなされて、定数の改正、条例改正が行われてきたという経緯がある。議員皆さん方に判断を委ねたい。



①西寒野打越線（東寒野公民館前付近）
②災害公営住宅・子育て支援住宅とともに整備が進む
防災公園
③安津橋総合運動公園（仮称）

平成30年第1回臨時会（1月15日）の審議結果

区分	議案	概要	審議結果
議案1号	工事請負契約の締結について	町道西寒野打越線寒野新橋下部工工事に 関する契約締結	可決
議案2号	工事請負契約の締結について	甲佐地区都市公園整備工事に 関する契約締結	可決
議案3号	工事請負契約の締結について	安津橋総合運動公園（仮称）サッカーエ リア照明設備工事に 関する契約締結	可決

平成30年第2回臨時会（3月1日）の審議内容

○議長選挙○副議長選挙○常任委員会委員選挙○議会運営委員会委員選挙○政治倫理審委員選任
○御船地区衛生施設組合の組合議会議員選挙○御船町甲佐町衛生施設組合の組合議会議員選挙○上益城
消防組合の組合議会議員選挙○上益城広域連合の連合議会議員選挙○熊本県後期高齢者医療広域連合の
連合議会議員選挙○同意第1号 甲佐町監査委員の選任同意 以上の審議結果については2ページ、3
ページをご覧ください。

平成30年第3回臨時会（3月28日）の審議結果

区分	議案	概要	審議結果
議案26号	工事請負契約の変更について	平成28年熊本地震に伴う芝原地区液状化 対策工事の変更契約（増額・工期の延長） に関する契約締結	可決
議案27号	工事請負契約の変更について	安津橋総合運動公園（仮称）サッカーエ リア人工芝整備工事の変更契約（増額・ 工期の延長）に関する契約締結	可決

新しい風と甲佐町

糸田区 平野 司令

先日、甲佐町議会議員の投票がありました。今回特徴的だったのは多くの新人議員さんが当選された事だと思います。

新しい議員さんが当選されるという事は、甲佐町は新旧含めて色々な個人・団体が活発に動いていたのだと感じます。

毎年行われているイベントで、昔から開催されている初市やあゆまつりがあります。

そして、最近になって開催されているイベントでは、スポーツフェスタや甲佐蚤の市などがあり、新旧楽しいイベントが行われるようになりました。

しかし、こういうイベントや団体等はまだ点として存在しているだけで、本来の力や魅力を十分に発揮しているとは思えません。

十分な魅力を発揮するには、この点を繋げて線にし、そしてさらに面として発展させる必要があると思います。個人等で活動されている方々もおられるので、そこを甲佐町や商工会などがサポートして広げていく事が今後必要になります。

是非とも甲佐町議会議員の皆様においては、イベントや団体に参加し触れる事によって、甲佐町に必要なパワーを後押ししていただけると、今後素晴らしい甲佐町になる可能性を秘めるパワーとなると思います。

人口減や少子高齢化など田舎の将来には暗雲が立ち込めておりますが、対立ではなく調和そして発展と甲佐町を明るくして欲しいです。



甲佐町 議会だより

8月に工事完了予定

災害復旧後には、県道嘉島甲佐線との平面交差も

熊本地震以降、通行止めとなっている田口橋。

災害復旧工事は8月頃に工事が完了する見込みで、一日も早い通行再開が望まれている。

また、通行できるようになった後には、県道嘉島甲佐線（白旗側）の道路改良を行い、田口橋とは平面での交差点になる予定であり、熊本市と県南を結ぶ重要路線になるとともに、甲佐町の活性化にも期待される。

通行止めが続いている田口橋（乙女側）



平面交差が予定されている田口橋（白旗側）



町民の皆様の議会傍聴をお待ちしています。
お気軽にお越しください。

※令和元年第2回（6月）定例会は、6月7日開会の予定です。

編

集

後

記

2月に行われた改選により、議会広報特別委員会も新たな構成となり、新委員7名で編集を行ってまいります。

町民の皆様は議会をより知っていただくため、今後とも分かりやすく親しみやすい議会広報作成に努めてまいります。

さて、熊本地震発災から3年が経過し、復旧期から復興期への転換期を迎えています。「創生を見据えた復興」の実現に、行政、議会が丸となり全力で取り組んでまいります。（甲斐高）



議会広報編集特別委員会

委員長 甲斐高士
副委員長 宮本修治
委員 佐野安春
委員 森田精子
委員 鳴瀬美善
委員 田中孝義
委員 甲斐良二